

## 初級総合日本語クラスの間試験口頭テストの一例

渡嘉敷 恭子

### 要旨

「口頭テスト」はプレースメントの際に行われるレベル分けのための熟達度テスト (proficiency test) とその学生がある期間にどのぐらいレベルアップしたかを測る到達度テスト (achievement test) に大きく分けられる。前者は、ACTFL が開発した OPI に代表される特定のプログラムや使用したテキストに準じていない能力を測る汎用性が高いものである。一方、後者はある特定のクラスまたはプログラムで使用され、主に限られた範囲内の会話力を評価するために使われる。筆者は 2017 年春学期に総合日本語 3 のクラスを担当し、中間試験の際に口頭テストを行った。本稿はその口頭テストの実践報告である。

【キーワード】 オーラルテスト、初級日本語、口頭試験、到達度

### 1. はじめに

関西外国語大学の留学生別科は 2 月から 5 月までと 9 月から 12 月までの各学期 15 週間の 2 学期制を採用している。各学期 350 人以上の留学生が世界各国から入学しているが、そのうち 80% 以上はアメリカからの留学生である。来日してすぐプレースメントテストを受験し、必修である総合日本語のレベルが決定する。総合日本語のクラスは週に 90 分の授業が三回あり、他の時間に英語で行われる一般教養の科目や漢字のクラスを取ることができる。そのため、関西外国語大学の留学生は英語の能力が入学の条件になっている。

必修科目である総合日本語のクラスは 8 レベルに分かれている。レベル 1 から 4 までは初級レベルで『初級日本語げんき第 2 版』を使用しているが、その学習範囲は以下の通りである。

総合日本語 1 第 1 課から第 6 課まで

総合日本語 2 第 6 課から第 12 課まで

総合日本語 3 第 13 課から第 18 課まで

総合日本語 4 第 18 課から第 23 課まで

以下筆者が担当する総合日本語 3 のクラスについて簡単な概要を説明し、中間試験として行った口頭試験を紹介する。

## 2. 総合日本語 3

### 2.1 学習者

総合日本語 3 は 4 クラスあり、筆者が担当したのは 2 クラスである。学習者数は合わせると 23 名、出身国はアメリカが 12 名、オランダが 3 名、メキシコが 2 名、イギリス、ベトナム、フィリピン、エクアドル、フィンランド、リトアニアが 1 名ずつである。学期前の筆記テストを受けて、このレベルに振り分けられた学生で、共通語は英語である。

### 2.2 学習範囲

2017 年春学期の 15 週で『初級日本語げんき II 第 2 版』の第 13 課から第 18 課まで学習する。<sup>(1)</sup> 各課で学習する学習項目は以下の通りである。<sup>(2)</sup>

	学習項目	例文
第13課	可能動詞	一キロ泳げます。
	～し	物価が高いし、人がたくさんいるし。
	～そうです (様態)	おいしそうです。
	～てみる	着てみます。
	なら	紅茶なら飲みました。
	頻度	一日に二回食べます。
第14課	ほしい	本がほしいです。
	～かもしれません	女の人は学生かもしれません。
	あげる/くれる/もらう	きょうさんはディエゴさんにトレーナーをあげました。
	～たらどうですか	家に帰ったらどうですか。
	も	四時間も勉強しました。
	しか	三十分しか勉強しませんでした。
第15課	意志形	コーヒーを飲もうか。
	意志形 + と思っています	運動しようと思っています。
	～ておく	お金を借りておきます。
	名詞修飾節	韓国に住んでいる友だち

	学習項目	例文
第16課	～てくれる/あげる/もらう	紹介してあげます。
	～していただけませんか	ゆっくり話していただけませんか。
	～といい	よくなるといいですね。
	～時	かぜをひいた時、病院に行きます。
	～すみませんでした	来られなくてすみませんでした。
第17課	～そうです (伝聞)	宝くじを買ったそうです。
	～って	今週は忙しいって。
	～たら	お金があったら、うれしいです。
	～なくてもいいです	勉強しなくてもいいです。
	～みたいです	スーパーマンみたいです。
	～前に/～てから	友だちの家に行く前に電話をかけます。/電話をかけてから、友だちの家に行きます。
第18課	他動詞/自動詞	窓が開いています。/窓が開きます。
	～てしまう	昼ご飯を食べてしまいました。
	～と	春になると暖かくなります。
	～ながら	テレビを見ながら勉強します。
	～ばよかったです	もっと勉強すればよかったです。

授業ではこれらの文型以外に各課の会話文や新出単語として導入された語彙に含まれる漢字を中心に 15～16 個ずつ学習する。

### 2.3 学習スケジュール

関西外国語大学の留学生別科の総合日本語のコースは一学期に 90 分の授業が 45 コマある。著者が担当している総合日本語 3 では一課を 3 コマ (第 18 課は 4 コマ) の授業で学習する。約半数の授業で文法項目や会話文を学習し、その他の時間は第 12 課までの復習やレッスンテスト、中間試験、発表などに使われる。レッスンテストは毎 2 レッスンごとに行い、中間試験は口頭テストのみで第 15 課が終了してから実施している。

## 3. 口頭テスト

### 3.1 口頭テストの概要

中間試験の口頭テストは以下のような手順で行った。まず、準備を促すために一週間前に口頭テストの概要を記載したプリント (資料 1) を配布した。テキスト『初級日本語げんき』の登場人物の「みちこ」が留学生 (学習者自身) を旅行に誘う内容の

会話文を読ませる。その会話の内容を元に、別の日本人の友達「きょうこ」を電話で誘うというタスクを与えた。その会話の中で「きょうこ」に扮した教師が質問をし、学習者が答える。あえて学習者が答えを知らない質問をして、自然な受け答えができるかも評価した。

### 3.1.1 「旅行に誘う」というタスクにした理由

「誘う」というタスクは日本の大学に留学している学習者にとって日常的な場面で使われる言語活動であること、また、テキスト『初級日本語げんきⅡ 第2版』の第15課の会話文が主人公のアメリカ人が日本人の友人を長野旅行に誘う会話であり、会話の展開が予測でき、遂行しやすいと考えた。

### 3.1.2 自由会話ではなく、みちこと留学生の会話に基づいて会話をさせた理由

「自由に旅行に誘う」というタスクにすると評価者が学習者が何を言うのか想定できず、評価が難しくなる。例えば、評価者が質問することに「わかりません」と答えた場合、評価者は学習者が評価者の質問がわからないのか、質問は理解できるが答えを知らないのか判断できない。しかも、コミュニケーションとしては成立するため減点することができない。また、自由会話にすると、学習者の準備状況によって、発話の量に著しい差が生じ、それをどう評価するのか基準が曖昧になりかねない。<sup>(3)</sup>

### 3.1.3 文法項目のリストを記載した理由

この口頭テストは2015年の秋学期から実施しているが、当初は習った文型をできるだけ多く使うように指示しただけで、具体的なリストをプリントに記載しなかった。その時のテストでは積極的な文型の使用があまり見られなかったが、2016年の秋学期に項目を箇条書きにしたところ、使用が明らかに多くなった。具体的な提示によって、準備段階で何かしらの教育的効果を生んだと考えられる。

### 3.1.4 質問のリストを記載した理由

あらかじめ質問のリストを配布したのは、学習者の準備を促すためである。どのような質問がされるのか自ら予測して準備できる学習者とそうではない学習者がいるため、その差が評価に影響することを避けた。それも言語能力の一部として評価すべ

きと考えることもできるが、口頭テストはほとんどの学習者にとって緊張する場であり、どれだけ準備をしても、実力が発揮できないことが多い。可能な限り学習者が緊張しないような条件でテストを実施したいと考えた。また、3.1.3で指摘したように、具体的にされる質問がわかっていたほうが学習者にとって準備が容易になる。到達度テストであるので、学習者がどのぐらい準備したかも評価に反映されるように、予測される質問の情報を提供した。

### 3.2. 評価の観点

OPIなどの熟達度テスト (proficiency test) では文法能力よりもコミュニケーション能力に重きを置く傾向にあるが、この口頭テストは中間試験であり、到達度テストの性質上、文法の運用能力も評価項目にした。<sup>(4)</sup> 会話能力を測る熟達度テストではなく、それまでに学習した範囲の学習内容が、どの程度身についているのかを測るテストであるため、学習した内容、特に文型の使用に重きをおいて評価した。また、会話の中で発せられるあいづちなども評価項目に入れた。以下は学習者に配布した概要の評価項目である。それぞれ10点、30点満点で評価した。

①Communication (including listening, initiative & response)

②Accuracy (grammar & vocabulary)

③Use of grammar

①は教師の発話や質問を理解し、それに対して適切に応答することができたか、また質問に答えるだけでなく、同じ質問を投げ返したり、自然な流れで円滑に受け答えができたかを評価する。②は文法や語彙の正確さを評価する。③はそれまでに学習した文法項目をどれだけ使用して会話することができたかを評価する。①の評価項目でもあるあいづちはこれまでも多くの研究でデータ分析がなされ、その重要性が指摘されている。あいづちの定義は研究者によって異なるが、「話し手が発話権を行使している間に聞き手が送る短い表現で、実質的な内容を含まない表現」(メイナード1993)に、「そうですか。」「そうですね。」のような文として成り立つものも含めた。また、「ええと」「あのう」などのフィラーも①の評価項目とした。<sup>(5)</sup>

### 3.3 データ (学習者 A) と評価

今回 23 名の学生を対象にテストを行ったが、以下は学生一名の同意を得て、デジタルレコーダーで録音した音声を、起こしたものである。テストは教師の研究室で行われ、机上にはパソコンとプロップとして使う携帯電話が置かれ、パソコンの画面には「きょうこさんに電話して、りょこうにさそってください。Call Kyoko to invite her to the trip to Hong Kong. Converse with her naturally.」と指示が提示されている。

T: じゃあ、インタビューを始めます。じゃあ電話をかけてください。(携帯電話を持つように動作で促す)

T: もしもし。

S: もしもし。きょうこさん、元気ですか。

T: はい、元気です。だれですか。

S: Ah.. ○○です。

T: ○○さん、久しぶりですね。

S: ああ、久しぶり。

T: 元気？

S: 元気です。

T: いいですね。

S: Ah.. あのう、春休みに何をしますか。

T: 春休みですか。まだわかりません。でもお金がないからどこにも行かないと思います。

S: Ah.. そうですね。Um.. あのう、インターネットの・・・広告で、安い、飛行機の切符を見たんですが、一緒に行きますか。

T: はい。

S: 一緒に行きますか。

T: ええっと・・・すみません、どこに行くんですか。

S: 香港に・・・

T: 香港に行くんですか。

S: 香港、え～、香港に行ったことがありますか。

T: いいえ、ありません。でもいくらですか。

S: Ah.. そうですねえ。一人二万円です。

T: 一人二万円ですか。

S: はい。

T: とても安いですねえ。二万円なら大丈夫だと思います。

S: そうですね？

T: はい、私も行ってもいいですか。

S: はい。Ah..

T: はい。

S: hahaha、あ、中国、あ、中国語… を…話せる…ですか。  
T: あ、中国語ですか。  
S: はい。  
T: いいえ、話せません。〇〇さんは？  
S: 私もいません。  
T: 話せませんか。  
S: うんうん。  
T: 大丈夫ですか。  
S: Ah.. でも、Um.. 習いたいです。  
T: 習いたいですか。  
S: はい。  
T: 私も習ってみたいです。  
S: はい。  
T: でも、香港はみんな英語が話せるから大丈夫ですね。  
S: ええ、はい。そうですね。  
T: どうして、え～ 〇〇さんは香港に行ってみたいんですか。  
S: そうですねえ。日本は香港から近いで、近いし… きれいだし、香港に行きたいんです。  
T: ああ、いいですねえ。  
S: はい。  
T: え～、香港で何をしてみたいですか。  
S: Um.. たぶん香港で Disneyland に行き…行ってみたいです。  
T: ああ、ディズニーランドですか。ディズニーランドに行ったことがありますか。  
S: いいえ。  
T: ありません？  
S: ありません。  
T: そうですか。東京ディズニーランドに行ったことがありますか。  
S: いえいえ。Ah.. まだ行き…行っていません。  
T: あ、そうですか。じゃあ、一緒に行きましょう。香港のディズニーランドに。  
S: じゃあ、来週金曜日…に…駅…で会いませんか。  
T: え、いいですね。わかりました。それから空港に一緒に行きましょう。  
S: うん、はい。はい。  
T: 私は香港で、え～、買い物が見たいです。  
S: そうですか？ Um.. じゃあ、安い、香港で 安い…ひ…ひ…けしよ…けしよ…けしよびん…化粧品は安いです。  
T: 本当ですか。あ、じゃあ化粧品が買いたいです。  
S: hahaha…  
T: あ、じゃあ、〇〇さんは化粧品を買うつもりですか。

S: はい。

T: いいですね。私は家族にお土産が買いたいです。

S: じゃあ、×× (聞き取り不能)、ah.. 食べ物は ×× (聞き取り不能) かい、買ったほうがいいですよ。

T: あ、そうですね。私は…あの、母が中国のお茶が大好きなので、中国のお茶を買うつもりです。

S: いいですよ。

T: 中国のお茶を飲んだことがありますか。

S: いいえ。

T: そうですね。とても有名です。

S: そうですね、なるほどね。

T: 香港の料理を食べたことがありますか。

S: はい、よく食べますよ。

T: あ、そうですね。

S: はい、天津…をよく食べます。

T: あ、本当ですか。いいですねえ。

S: はい。

T: じゃあ、香港の美味しいレストランも知っていますか。

S: いいえ、知な…知りませんが、後で internet…で調べ…つもり、すらべ…調べるつもりです。

T: あ、いいですね。私も、じゃあ、インターネットで調べておきます。

S: はい。

T: それから、スーさんは香港人だから、スーさんに聞いておきます。

S: スーさん？

T: 私の友達です。

S: ああ、そうですね。

T: だれが飛行機の予約をしますか。

S: みちこさんに…も行きます。

T: みちこさんも行くんですか。

S: はい。

T: わかりました。じゃあ、みちこさんが飛行機の予約をするんですか。

S: はい。

T: そうですね。わかりました。え～、もうホテルを予約しましたか。

S: ホテルなら、Um… あたた…ますえ？

T: もう一度、すみません、お願いします。

S: Um…ホテルなら、予約…しました…

T: しました？ え、どんなホテルを予約しましたか。

S: 大きいホテル…です。

T: あ、そうですね。え～、安いですか。



S: はい。はい。  
T: そうですか。私は今、お金がないから高いホテルに泊られません。  
S: でも、安いです。  
T: 安いですか。  
S: この…このホテルは安いです。  
T: よかったです。は～い。じゃあ〇〇さんは、旅行の前に何をしておきますか。  
S: すみません？ もう一度？  
T: え～、旅行の前に何をしておきますか。  
S: じゃあ、そうですねえ。買い物をして…おきます。  
T: 買い物？  
S: はい。  
T: え、何を買っておくんですか。  
S: ふつくと…薬を…買いまし…す。  
T: あ、そうですか。え、どんな服を買うつもりですか。  
S: たぶん、夏用…  
T: あ～夏の服、そうですね。香港はたぶん、日本より暖かいですね。  
S: はい。  
T: わかりました。私は旅行の前に中国語を少し勉強しておきます。  
S: はい。そうですね。  
T: はい、すみません。今何時ですか。  
S: いま…じゅうじ、いちじ ろくですよ。  
T: あ、そうですか。すみません。十一時半にアルバイトがあるんです。  
S: あ、そうですか。  
T: はい、また後で電話しますね。  
S: はい。はい。  
T: ありがとう。バイバイ。(携帯電話を閉じる)  
S: バイバイ。(携帯電話を閉じる)  
T: はい、終わりです。

以上、8分24秒のインタビューである。途中、教師と学習者の発話が重なって、学習者の発話を遮ってしまうことがあった。また、学習者との会話をスムーズに進行させるため、学習者が理解しやすいように教師の発話が不自然になる場所があった。

この被験者のテストの採点と評価の内容は以下の通りである。評価は評価シート(資料2)を使用した。評価シートの記入はテスト中とテスト後に録音した音声を聞いて行った。

①Communication (including listening, initiative & response) 9/10 点

一度だけ教師の質問を理解できなかったところがあったが、ほぼ問題なく聞き取れていた。また、あいづちについても、よく混同しがちな「そうですか。」「そうですね。」をうまく使い分けており、他の被験者に比べても自然な応答ができていた。フィラーについては英語母語話者にありがちな “Ah..” でも、“Um..” のような英語のフィラーが使われることが多かった。積極性については、質問された内容については積極的に答えようとしていたが、自分から質問を返すことが少なかった。また、最小限の応答で終わってしまうことが多く、特に「はい」「いいえ」で答える質問に関しては、それ以上の情報を提供することが少なかった。質問についても、テストの前半に一度だけ質問をしたが、それ以降は質問に答えることに集中して相手のことを聞く余裕を失ったように思われる。

②Accuracy (grammar & vocabulary) 9.5/10 点

正確さも高く評価した。明らかな文法の誤用は教師の質問「東京ディズニーランドに行ったことがありますか」に対して「まだ行っていません」と答えたところ、「中国語を話せるですか」、「知りませんが」、時間の表現の四箇所であった。言葉や助詞を慎重に選びながら話しているところがあり、何度かたどたどしい発話も見受けられた。発音やアクセントに関しては聞き取れないほどの誤用以外は減点の対象から外した。

③Use of grammar 9/10 点

「～ほうがいいです」「～し、～し」など 10 の文法表現の使用があった。この採点は以下の方式で行った。

15～	10 点
11～14	9.5 点
9～10	9 点
7～8	8.5 点
6～7	8 点
4～5	7 点

難易度に関係なくどの文法も同じ比重で評価することは、採点方法として問題がないわけではないが、評価課程の簡素化が必要で、この評価方法を採用した。

これは評価の一例だが、他の22名も同じ方法で評価した。この評価方法はかなり担当教師の主観が入る余地があり、完全なものとは考えていない。しかし、学期の途中でのテストであるので、時間的な制約もあり、現時点ではこの方法を採用している。また、採点がかかなり寛大なのは、動機付けの効果を重要視しているからである。このテストの第一の目的は学習者に自主的に既習項目を復習させること、第二の目的は動機付け、第三の目的は学習者の会話力を測定した結果を成績に反映、学習者自身にフィードバックをすることである。極度の緊張の場面で思うように話せず、テスト後は落胆している学習者も少なくない。学期後半に繋がるような動機付けの機会として捉え、できるだけ否定的な厳しい評価は避けた。

### 3.4 フィードバック

学習者にはテスト後に採点結果とコメントを返却している（資料3）。コメント用紙には各項目の点数と誤用の例を記入した。簡易なものであるが、さらに詳しい評価や所見が必要な学習者にはオフィスアワーに来るように指導している。

### 3.5 今後の課題

今回のテストは過去2年間、改訂を加えながら使用してきた。本稿で採用した学習者Aとの会話では、あいづちが比較的多く使われたが、教師が何かを言っても、応答しない学習者が多く、学習者が自主的にあいづちを使えていないことが明らかになった。これまでは、この口頭テストの説明の際に、「そうですか。」「そうですか？」「そうですね。」「そうですね…」などの例を示しただけだが、さらに時間を割いて指導する必要性を感じた。あいづちの指導については中級以降で取り扱われることが多いが、小松・福富・黄・呉（2009）は初中級段階では文型を用いた話す技能が優先され、聞き手としての能力が不足していることを指摘し、指導方法の一例を提案している。フィラーの指導も含めて、今後のコースデザインの際の課題としたい。

また、このテストを使用し始めてから会話の中で質問をするように指示している

にもかかわらず、未だ積極的に話そうとする学習者は少ない。学習者 A の会話でも教師が話している時間が長く、被験者の発話の量は十分とは言えなかった。会話テストという極度の緊張が強えられる状況でどう学習者に積極的に話させるか工夫が必要だ。これまで筆記テストだけで行われていたレッスンテストに会話テストを組み込むことで会話テストの回数を増やし、学習者に慣れさせることも一案かもしれない。

このテストは、学習者の会話能力ではなく、学習した内容について測定するものであるので、現時点ではプロフィシエンシーについては評価していない。今後、評価項目として会話の遂行能力なども検討する必要があるだろう。

## 注

- (1) 『初級日本語げんきⅡ 第2版』は第13課から始まる。
- (2) ジャパンタイムズ社のサイト <http://genki.japantimes.co.jp/about/about06> の情報を使わせていただいた。
- (3) 例えば、学習者が積極的に多くの情報を伝えようとするほど、誤りをおかしやすくなり、評価方法によっては不利になることもある。
- (4) 学習者の成績の10%にあたる。
- (5) フィラーとは言いよどみ表現で山根智恵が『日本語の談話におけるフィラー』の中で「フィラー」という名称をつけた。

## 参考文献

- 小松奈々・福富理恵・黄明淑・呉曉婧（2009）「初中級学習者を対象としたあいづち指導—気づきを促す授業デザインの有効性—」WEB版『日本語教育 実践研究フォーラム報告』（『2009年度日本語教育学会実践研究フォーラム予稿集』92-95.）
- メイナード・K・泉子（1993）『会話分析』くろしお出版
- 山根智恵（2002）『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版

([ktokashi@kansai.ac.jp](mailto:ktokashi@kansai.ac.jp))

資料 1 試験の説明プリント

JPN3CD 中間試験 Midterm Oral Exam

---

**Date:** 3月8日(水曜日)か10日(金曜日) (※decided by lots)

**Time:** :

**Place:** 先生のオフィス (3326)

**Time required:** ひとりろっぶん 一人六分ななぶん から七分ぐらい

You (a foreign student) saw your Japanese friend, Michiko at CIE lounge in the morning.

みちこ： ○○さん、おはよう。

がくせい 学生 (あなた)： みちこさん、おはよう。

みちこ： 春休みはどうしますか。

がくせい 学生： 何もしないつもりです。

みちこ： そうですか。ほんこん 香港に行ったことがありますか。

がくせい 学生： いいえ、ありません。

みちこ： インターネットの広告で安やすい飛行機ひこうきの切符きっぷを見たんですが、いっしょに行きませんか。

がくせい 学生： 行きたかったんです。でも、いくらですか。

みちこ： 一人二万円です。

がくせい 学生： 安やすいですね。二万円なら行けると思います。あ、きょうこさんも行くかもしれません。

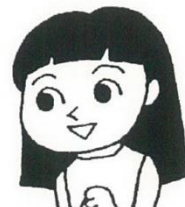
みちこ： そうなんですか。じゃあ、きょうこさんに聞いてみてください。

がくせい 学生： わかりました。やす 安い切符きっぷだから、早くよやく 予約したほうがいいですね。

みちこ： そうですね。今週の週末しゅうまつ、インターネットでしておきますよ。

がくせい 学生： ありがとう。じゃあ、授業じゆぎょうの後できょうこさんに電話してみます。

みちこ： お願いします。



## JPN3CD 中間試験 Midterm Oral Exam

You will call Kyoko to invite her to the trip you and Michiko were talking about in the morning. Answer her questions and converse with her naturally.

- Don't start the conversation with 「いっしょに香港ほんこんに行きませんか。」 abruptly. Try to invite Kyoko by asking questions like Michiko did.
- Explain about the trip and answer Kyoko's questions naturally.
- If Kyoko asks about something you don't know, tell her to ask Michiko or tell her what you think, using ～と思います or かもしれません. Try to use ～と思います, かもしれません and ～と言っていました appropriately.
- Don't just answer her questions. Ask questions to expand the conversation.
- Give responses such as はい、ええ、えっと、そうですか、そうですね…、そうですね、わかりました、いいですね etc. to indicate you are paying attention and/or understanding the speaker.
- Try to use the following grammar when you ask or answer questions.

～ませんか	～つもり
～たり～たり	～と言っていました
～と思います	～たいです
～ことがあります	～ほうがいい
まだ～ていません	や
Potential	～し、～し
～そう	～てみます
ほしいです	～たらどうですか
あげます・くれます	～かもしれません
noun modifier	～なら
～ておく	volitional
しか・も	～ておく
Noun modifier	～んです



## JPN3CD 中間試験 Midterm Oral Exam

---

### Expected questions:

きょうこ：だれが行くんですか。

きょうこ：いくらですか。

きょうこ：もうホテルを予約よやくしましたか。(The answer should be “not yet”.)

きょうこ：だれが予約よやくするんですか。

きょうこ：どうして香港ほんこんに行きたいんですか。

きょうこ：香港ほんこんで何をしようと思っていますか。何がしてみたいですか。

きょうこ：香港ほんこんで買かいたい物がありますか。

きょうこ：中国語が話せますか。

きょうこ：香港ほんこんの料理りょうりを食べたことがありますか。

きょうこ：香港ほんこんの美味しいレストランしを知っていますか。

きょうこ：香港ほんこんまでどのぐらいかかりますか。

きょうこ：何を持もって行いったほうがいいですか。

きょうこ：旅行りょこうの前まへに何なにをしておきますか。

### Grading criteria:

Communication (including listening, initiative & response)	/10
Accuracy (grammar & vocabulary)	/10
Use of grammar	/10

※The oral test will be recorded for the purpose of grading.

資料2 評価シート

月 日 中間口頭採点用紙 3 名前

学生：<sup>がくせい</sup> もしもし、きょうこさんですか。〇〇です。  
 きょうこ： 〇〇さん、ひさしぶりですね。元気ですか。  
 学生：<sup>がくせい</sup> (きょうこを誘う)  
 きょうこ： いいですね。でも、今お金があまりないんです。  
 学生： だいじょうぶですよ。ひとり2万円ですから。  
 きょうこ： 安いですねえ。2万円なら行けると思います。  
 きょうこ： ～さんは、どうして香港に行ってみたいんですか。  
 きょうこ： ～さんは、香港で何をしてみたいですか。  
 きょうこ： ～さんは、香港で買いたい物がありますか。  
 きょうこ： 中国語が話せますか。  
 きょうこ： 香港の料理を食べたことがありますか。  
 きょうこ： 香港のおいしいレストランを知っていますか。(知りません) スーさんは香港人ですから、スーさんに聞きましょうか。  
 きょうこ： だれが予約するんですか。(学生：みちこさんがインターネットですと言っていました)  
 きょうこ： どんなホテルを予約しようと思っていますか。  
 きょうこ： 香港に何を持って行ったほうがいいですか。  
 きょうこ： ～さんは旅行の前に何をしておきますか。  
 きょうこ： すみません。今何時ですか。今からアルバイトに行かなきゃいけないんです。後で電話しますね。

使った文型	～ませんか	～つもり
	～たり～たり	～と言っていました
	～と思います	～たいです
	～ことがあります	～ほうがいい
	まだ～ていません	や
	Potential	～し、～し
	～そう	～てみます
	ほしいです	～たらどうですか
	あげます・くれます	かもしれません
	名詞修飾	～なら
	～ておく	volitional
	しか・も	～んです

コミュニケーション (リスニング、相づち、積極性含む) /10  
 正確さ (文法と語彙) /10  
 文法と表現 /10

/30 点



資料3 テスト後のフィードバック

Class: 3 \_\_\_\_\_

Name: \_\_\_\_\_ さん

The Result of Your Midterm Examination

/30	%
-----	---

Communication (including listening, initiative & response) /10

Accuracy (grammar & vocabulary) /10

Use of grammar /10

Example of your mistakes

※If you want to listen to your oral interview, make an appointment with Tokashiki